

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3491500231
法人名	社会福祉法人 まり福祉会
事業所名	まりホーム 熊野
所在地	広島県福山市熊野町乙443-1 (電話) 084-059-1166
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 19 年 11 月 13 日

【情報提供票より】(19 年 10 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19 年 1 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 13 人 非常勤 1 人 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り 1 階建ての 1 階 ~ 階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) <u>無</u>		
保証金の有無 (八百円以上か)	有(円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (10 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	84.7 歳	最低 70 歳	最高 70 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沼隈病院・常石病院・黒瀬デンタルクリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】平成 19 年 11 月 30 日

施設運営の根本を「家庭」とされ理念もそれに沿っている。ケアプランは利用者を尊重し、具体的であると同時に誰が見ても理解しやすい表現がなされている。ホームの雰囲気は温かみがあり、開放的で地域の人や外部の方々が見学しやすい。山里ののどかな雰囲気の中に立つホームは居室からも四季の移り変わりが感じられ、利用者が穏やかに生活できる環境である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点について真摯に受け止められ取り組みがなされていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員がそれぞれに取り組み、勉強会において問題点を明確にされていた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2~3か月に1度運営推進会議を開催し、取り組んでいる。討議内容について、会議という形式をとらず、地域住民や家族が関心を持つテーマを上げ、和やかに交流できる内容をテーマに話し合いを行っている。その結果、地域住民と家族が大勢参加し、利用者やホームが地域の中に受け入れられている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居前に詳しく説明し、文章でも伝え、玄関に意見箱を設置している。家族の訪問時に意見や苦情、不安を聴き、双方が理解し、意思疎通を大切に取り組んでいる。また、意見について聞き違いがないよう、文章に残し職員全員が理解している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の運動会や公民館活動などに利用者が参加している。畑で採れた作物を持ってきてくれたり、演奏会を開くなど、日常の交流も盛んに行われている。消火訓練も地域住民の参加がある。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを大切にしたい理念となっている。法人とまりホーム熊野独自の理念があり、それに基づいて運営されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の名札の裏に理念を印刷し、日常において理念に対する取り組みができるように意識づけられている。毎年まりホーム熊野の目標と職員の自己目標を立て、理念を共有し、日々の取り組みに結びつけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、清掃活動や資源回収などに参加している。公民館の活動にも職員と利用者が参加し、地域住民との交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み勉強会で意識付けがされている。問題点を明確にし今後につなげる取り組みが行われている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において地域住民や家族が関心を持つテーマを議題にし、大勢の参加があり、多数の意見がでている。その結果、利用者やホームの位置づけが地域になされた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや市町村担当者と連携を取り運営に役立てている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ほほえみだよりを発行している。ほとんどの家族が週に1回程度訪問され、その時に利用者の様子を伝え、金銭管理は出納帳で管理され家族の訪問時等に伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情処理についての話し合いを十分にされ、公共の制度があることも伝えている。相談について細かく記録を取り、職員間で共有している。普段から家族との意思疎通に努力している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動について、前もって話すことで利用者や家族が動揺が無いように配慮し、取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任の職員については法人全体のプログラムに沿って研修している。その後もリーダーについてOJTを行っている。沼南会として毎月1回勉強会を行っている。まりホーム熊野は3か月に1回テーマを決めて勉強会を行っている。外部研修についても担当者が随時参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームと月に1回程度の交流がある。他のホームとも積極的に交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービスを利用する前に面接を行い、本人や家族とともにホーム見学を行う。本人や家族が納得をした上で入居の決定をしている。グループホームに適しているか本人にとって一番良い方法を模索し、見極めながら対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>昔の時代の話や言葉遣い、生活様式などの知識を利用者から受けるなど、お互いを支え合う関係ができています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常のケアにおいて利用者の思いや希望を汲み取ることに努めている。自己表現が難しい方について表情や動作を見ながら気持ちを汲み取っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々のケアで汲み取った事柄について、本人や家族の意見を取り入れながら具体的なケアプランが作成されている。ケアプラン、フローシート、アセスメントを基に新たな介護計画が作成されている。さらに介護支援経過記録で1カ月ごとに評価を行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>最低3カ月に1回の見直しを行い、利用者の状態に応じ、その都度細かく見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のニーズに応じて対応している。訪問看護との連携を行い、柔軟な支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望でかかりつけ医の受診や往診の支援がされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医や提携委との連携を密にし、終末を迎えられたケースもある。本人や家族の終末期に対する要望を職員間で共有し、訪問看護との連携を行い、支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけないよう、言葉かけに気をつけている。個人ファイルは事務所内で保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のリズムを最優先している。起床時間や食事時間、行事についても個人の意思を尊重して対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、利用者と職員が協働している。食事の時も和やかな雰囲気であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせて支援している。概ね2,3日に1度入浴されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1週間のローテーションでテーブル拭きや外回りの掃除やごみ出しなど、それぞれで手分けして行っている。利用者のできることを見極めながら声掛けを行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩やお誕生会などの外食、家族と共にドライブなどを行っている。外食など大きな行事については全員で参加している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。職員の見守りを重視し一人一人が何をしているか把握に努めている。地域との連携もとられている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回地域の住民も参加して避難訓練が行われている。台風については教訓をもとに準備をしている。		地震や水害等の災害にも備え計画的に訓練や研修の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては沼南会の管理栄養士が献立をたてている。食事内容について月に1回の会議が行われ、利用者本位に取り組んでいる。水分摂取については全体的に把握しながら、必要な方の記録を取り対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は全体的に落ち着いて過ごすことができる雰囲気である。季節感あふれる手作りの作品が飾られ、調和している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって過ごしやすい空間である。思いおもいのなじみのある調度品や写真や作品が飾られている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム まりホーム 熊野

評価年月日 2007年 11月 13日

記入年月日 2007年 10月 22日

記入者 代表/管理者 氏名 助森 直美

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らせる支援をするようホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を常に念頭において日頃から実践に向けて取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム理念を玄関、ホール内に掲示し、機会あるごとに理解して頂けるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣で挨拶したり、声かけ合ったり、回覧板を持って行ったり来られたり、日常的に付き合いが出来るよう努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入し、町内運動会、敬老会、草刈り、資源回収など地域活動に参加し、地元の人々と交流するよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者や高齢者介護相談など、困っていることがあれば、いつでも相談を受ける窓口にするよう話し合い、地域の方にアピールしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員と自己評価及び外部評価を実施する意義について勉強会をもうけ、運営者と相談のうえ、サービスの質の向上にむけ、取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、利用者の状況、グループホームの理念にむけての取り組み、また自己、外部評価への取り組み状況を報告し、皆様の意見をサービス向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の生保担当者と定期的に連絡取り合ったり、行き来したり、また、市町村事業の行事に毎月1回入居者と共に参加し、サービス向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度について、ホームにて勉強会をもうけ、制度の内容などを勉強し、また実際ホームで必要な方に活用している内容を職員も理解している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内やホームで勉強会のテーマとして取り上げ、具体的に虐待の内容を把握し、事業所内で防止するよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は十分時間をかけて説明を行い、理解をして頂いている。わからない所は、いつでも尋ねて頂くよう話している。解約時も十分話し合い納得いただいている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書にも記載し、契約時にも口頭で話す又は第三者機関の説明、または、ホーム内意見箱もあることを説明し、管理者、職員にいつでも話し合える関係になるよう努力している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>預かり金については、定期的に明細を送付している。また、健康状態、暮らしぶりは、面会時、必要に応じて報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議などで意見を発言して頂く場を設けている。また、いつでも管理者、職員に相談するよう促している。貴重な意見を全職員で共用し、反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に会議、勉強会などにおいて、意見、提案を取り上げ、運営の向上にむけて反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化に応じて、ホーム長が現場で対応したり、隣のユニットの職員が入ったりと対応している。行事などは、職員がボランティアで積極的に参加している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が馴染みの職員による支援を受けられるよう、異動、離職を必要最小限に抑えるよう努力している。代わる場合は、納得いくよう話をしたり、ダメージを防ぐよう配慮している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて、法人内外の研修を受けるよう機会の確保に努め、自分の目標に向かって自己啓発に心がけるよう指導、支援している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に利用者、職員も交流している。管理者は、お互いに運営について相談、アドバイスを受けたり、共有している。お互いに刺激を受けながら、サービスの質の向上に努めている。		今後、職員同士のネットワーク作り、勉強会などの機会を築いていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2～3回職員の食事会を行ったり、定期的にミーティングや個々に面接を行って、個々の思いや悩みなどを聞いたり、相談にのったりと話しやすい環境作りに取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年度初めに各自、自己目標を立て、目標に向けて、各自己能力の向上に取り組み、また、運営者は、各自を把握し、努力や実績の評価を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	3度の食事時、10時、3時のおやつを一緒に食べたり、ご本人と一緒に日常生活の支援を行い、かかわりを持つことで、職員に話しかけやすく、又職員も言葉、様子に耳を傾けられる状態を作っている。		訴えることの出来ない利用者の近くで食事、お茶を一緒に取るよう全職員心がけ変化を見逃さない様に努めている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	3か月に1度、家族会を開き、グループホームの質の向上に向けて色々な意見、希望などを聞く機会を作り、職員と共に考え、解決		家族会に出席不可能なご家族に対しては、記録を郵送したり、各担当職員が電話連絡を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望を聞いた上で、他のサービスを利用しながら、家族の方々に負担なく、本人に満足して頂けるように皆で考え、対応に努めている。		健康面では、関連医療機関を受診して頂いたり、希望によっては入居前からかかっていた専門医へ、家族と相談しながら、本人の希望をかなうよう対応している。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	月1回の公民館行事などに本人が希望されれば、職員と一緒に参加し、地域の人達と馴染んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の出来ることを本人と一緒に考え、又は見極め、自分の役割を共に見つけ、支えあった日常生活が出来るよう常に支援している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年に3～4回利用者の方々に楽しんで頂ける行事を家族会の方々と共に考え話し合い開催している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	遠方の家族に対しては、利用者に月2度くらいは手紙を書いていただき、1か月であった行事写真を同封することで本人との関係を身近に感じていただいている。書くことの出来ない方に対しては職員が近況報告を行っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時の情報をもとに大切にされてきた人や場所との関係が途切れないよう、家族に協力していただきながら、住み慣れた地域とのかかわりが支援出来るよう努めている。		自宅の近所の方や、教師をされていた方には、教え子が面会に来られたりと関係が途切れないよう支援に努めている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者全員が共に支えあい、生活出来るよう、利用者の方々が決められたルールを書き出し、見える所に貼ることによって、孤立された方が一人でもおられないよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族、本人の希望を聞いた上で、在宅の場合はケアマネと、入院の場合は医療機関と連絡を取り合い、連携をはかっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、本人、家族に希望を聞き、本人の希望等、はっきりしている場合、共にプランを立てている。途中1ヶ月ごとの評価にて意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、面接行い書類にて詳しく記入し、全職員が把握出来、いつでも見られるよう、個々ファイルにて保管している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の様子を経過記録に記入し、日々の様子、状態変化を早期発見し、全職員把握している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に、家族、本人の希望を聞き、カンファレンスを行った上で、他の職員の意見、アイデアを反映した介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回、ケアプランの評価を行い、随時、本人の状態の変化に応じて介護計画見直し、作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子を経過記録、レクリエーション用紙に記入し、情報共有し、状態変化に対しては、早めの対応を行い、申し送りノートにて全職員ケア統一を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとしては希望のある人は地域のサービスを利用している。また、状況に応じて、専門医の希望あれば支援している。(地域の公民館や理美容院などのサービス)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に民生委員が訪問したり、地域ボランティアが興味のある人にちぎり絵を指導しに来られたり、行きたい人が公民館の教室に参加したり、必要に応じて支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	毎月、市町村事業の転倒予防教室に地域の一般の方と一緒に生きたい入居者が参加できるように支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターから訪問して頂き、行事に参加してもらったことはあるが、現在のところ、ケアマネジメント等の必要性がないため協働はしていない。		今後、要支援2の方が入居された場合は協働していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を尊重し、納得の得られたかかりつけ医と連携をとりながら、必要に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医と連携をとりながら、職員が相談に行ったり、認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者をよく知る地域の訪問看護ステーションと契約をとり、24時間体制で必要であれば、報告、相談したり、日常の健康管理や医療機関との活用の支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	普段から関連医療機関と連携をとっており、入院中の様子、又は早期退院に向け、地域連携室を通し、密に連絡取り、必要性があれば、ドクターとも相談している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、終末期のあり方について入居時話し合い、方針を共有している。また、必要性がでてきた時には随時、本人、家族に確認している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の利用者が、本人、家族の希望を組み入れ、ホームでは穏やかに過ごされるように、かかりつけ医、訪問看護と連携を取りながら、取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族の希望により、ホームより別の居所へ移り住む際には、本人に関わるケア関係者間で十分話し合い、情報交換を行い、ダメージを防ぐよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけに注意している。失敗などあれば、居室やトイレのドアを閉めて対応するよう心がけている。また、記録など個人情報には十分配慮している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	手芸、絵などの手作業、体操、ゲーム等、本人がやりたいことを決めたり、納得して出来るように支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり寝たい人、食事をゆっくり摂られる人、昼寝したい人等、一人ひとりのペースを大切に過ごしていただけるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1度希望があれば地域の理容院に来てもらっている。また、男性の入居者は希望により、職員がバリカンで刈っている。化粧など自分で自由にされている方もおられる。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に応じて野菜の皮むき、もやしの根取りなど手伝っていただいている。又、食事は職員と一緒に話をしながら楽しく出来るよう雰囲気作りをしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者が食べたい、飲みたい物を支援している。おやつも入居者の好みを聞いて好きなものを一緒に作ったり一緒に買いに行ったりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、習慣を生かして、入居者が気持ち良く排泄が出来るよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者に声かけして、希望を聞いて入浴を楽しんで頂いている。毎日入浴したい方には希望にそえるようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりのその時の状況に応じて居室で休んだり、ホール内のソファや畳の間に思い思いに休まれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者にテーブルを拭いていただいたり、洗濯物をたたんでいただいたり、花の水やりをしていただいたりしている。その人の持っている能力を引き出すよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に応じて財布を持って自分で買い物出来るように支援したり、小銭を自分で管理されている方もおられる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望があれば、職員と一緒にいる。(散歩、買い物、ドライブ等)		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者個々の希望でドライブがてらデパートで買い物したり、食事をしたりしている。また家族の協力のもと出かけてドライブ、食事をしたりと支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者宛に手紙が送って来られる際、職員支援にて利用者が返事を書いて送れるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気持ちよく訪問していただけるよう、職員が元気に挨拶をし、家族にあたたかく迎えている。また、居室に椅子を準備したり、お茶などのサービスをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の手引きを各職員が熟知し、勉強会も開いている。やむをえず必要な場合は書面にて家族の了解を頂き定期的に継続が必要かどうか検討している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は鍵もしていない。利用者が外へ出られる時には見守り強化し、職員間の連絡を取るようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はプライバシーを配慮しながら所在を確認している。また夜間は、1時間ごとに巡回して所在確認、安全確認に努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品類は利用者の手の届かない場所に保管している。利用者の能力に応じて必要な物は、管理している方もおられる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒委員会、リスク委員会があり、予防に努め、勉強会を行っている。火災については、消防訓練を年2回行って事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に勉強会にて、急変時の対応を人形を使って人工呼吸、心臓マッサージ、AEDを使って勉強している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防、避難訓練を行い、また近所の方にも来て頂き、一緒に参加協力していただいている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居者が思い思いに生活していくうえでの危険はいつ、どこで起こるか分からない、リスクが伴うということをしっかり説明し、納得していただき、文書に保存している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りノートに1週間に1回訪問看護が来られ、事前に入居者一人ひとりの状態、質問を記入し、返答いただき、指示にしたがい、全職員押印にて確認している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は、ファイルし、効能、副作用について、いつでも見ることが出来、個人情報もあり、ファイル保管場所もきめている。服薬管理は個別に名前を呼び、手渡し、服薬確認おこなっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に体操、散歩等を個別に行っていただき、排便状況を把握し、水分チェックを行い、水分補給にも努めている。場合によっては便秘薬にて対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、入居者の方には、歯磨き、うがいの声かけ、または誘導し、フローシートにて確認している。入れ歯は口腔洗浄剤にて、夜間消毒を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合ったお皿、茶碗などを使用したり、本人の嗜好に合わせて、お粥、おにぎり等工夫し、摂取出来るよう努めている。また、水分補給では、本人の好きな飲み物を取り入れ、1日の水分確保に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは年に1度、本人、家族の同意のもと、実施している。MRSA、皮膚疾患等は、消毒の徹底、汚物の処理の徹底に努め、定期的に職員は手洗いチェックを実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	炊事担当事前点検表を毎日チェックし、生野菜に対してはピュラックスにて、消毒し、まな板、ふきん等はキッチンハイターにて除菌を行い、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム敷地内、2ヶ所花壇、菜園を作り、利用者と話し合い、種や苗などを一緒に購入し、季節の花、野菜の収穫を行い、皆さんで四季を感じて味わっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンを備え、台所、居間、居室にへだたりのない様、居室の入り口に表札を掛け、食堂、居間には季節の花や入居者と一緒に作った作品を飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間があり、テレビも置いてあり、冬にはホットカーペットを敷いてくつろいで戴いたり、ホールには4人掛けソファを用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真、使い慣れた椅子、入居者が作った作品を居室に飾り、安心して過ごせる居室になっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室にて24時間の換気がおこなわれており、掃除後など、必ず換気を行っている。各居室の温度調節はご本人と相談したうえで職員が随時設定している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部すべてバリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴室などいたる所に手すりがあり、入居者の能力に合わせて、安全かつ自立した生活が送れるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口には表札、トイレ2ヶ所には入居者にわかりやすいよう、字の大きさ、色、トイレマークの表示を行っている。また混乱を起こしやすい入居者には特に目立つような飾りなど目印となるものを飾ってわかりやすいよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスにはウッドチェアを設置して自由にくつろげる空間作りや、花壇には花作りを入居者と職員にて一緒に活動出来るよう配慮している。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

Aユニット独自として特に力を入れている点はケアプラン作成において見直し時期にサービス担当者会議を開き、いろいろな意見から入居者の方々が自分らしくグループホームでの生活ができるよう支援している。場合によっては家族、ご本人も参加していただき個別ケア、本人の意思を尊重したケアプラン作りに力をそそいでいる。また、事業者全体としては自然に囲まれた穏やかな環境を活かし、地域の保育所や公民館などと活発に交流し、地域に根ざし、四季折々の生活を楽しんでいる。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム まりホーム 熊野

評価年月日 2007年 11月 13日

記入年月日 2007年 10月 22日

記入者 代表/管理者 氏名 岸田 浩子

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者や高齢者介護相談など、困っていることがあれば、いつでも相談を受ける窓口にするよう話し合い地域の方にアピールしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が職員と自己評価及び外部評価を実施する意義について勉強会をもうけ、運営者と相談のうえ、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、利用者の状況、グループホームの理念に向けての取り組み、また自己、外部評価への取り組み状況を報告し、皆様の意見をサービス向上に生かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の生保担当者と定期的に連絡を取り合ったり、行き来したり、また市町村事業の行事に毎月1回入居者と共に参加し、サービス向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業、成年後見制度についてホームで勉強会をもうけ、制度の内容などを話し合ったり、また実際ホームで必要な方に活用していて、内容も職員は理解している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内、またはホームで勉強会のテーマとして取り上げ、具体的に虐待の内容を把握し事業所内で、防止するように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は十分時間をかけて説明を行い、理解して頂いている。わからない箇所はいつでも尋ねて頂く様話しをしている。解約時も十分話し合い、納得いただいている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書に記載し、契約時にも口頭で第三者機関、またはホーム内、意見箱もあることを説明し、管理者、職員にいつでも話し合える関係になるよう努力している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>預かり金については定期的に明細を送付している。また、暮らしぶり、健康状態は、面会時に必要に応じて報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議などで意見を発言して頂く場を設けている。また、いつでも管理者や職員に相談するよう促している。貴重な意見を全職員で共有し、反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に会議、勉強会などにおいて、意見、提案を取り上げ、運営の向上に向けて反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化に応じて、ホーム長が現場で対応したり、隣のユニット職員が入ったりと対応している。行事などは職員がボランティアとして積極的に参加している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が馴染みの職員による支援を受けられるよう、異動、離職を必要最小限に抑えられるよう努力している。変わる場合は納得いくよう話をしたり、ダメージを防ぐよう配慮している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて、法人内外の研修を受けるよう機会の確保に努め、自分の目標に向かって自己啓発に心がけるよう指導、支援している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に利用者、職員も交流している。管理者はお互いに運営について相談、アドバイスを受たり、共有している。お互いに刺激を受けながらサービスの質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2～3回職員の食事会を行ったり、定期的にミーティングや、個々に面接を行って個々の思いや悩みなどを聞いたり、相談にのったりと話しやすい環境作りに取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年度初めに各自、自己目標を立て、目標に向けて各自己能力の向上に取り組み、また、管理者は、各自を把握し、努力や実績の評価をおこなっている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人より、何を一番求めているのかを聞き出すようにしている。話すことが難しい方に対しては生活の中で見つけ出すよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が何をしてほしい、何を求めているのかをくわしく聴き、どのようにしてほしいのか話している。遠方の方には手紙や電話などで、来られた時には、くわしく話をするようこころがけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を求めているのか見極め、グループホームでの対応できることとして必要に応じて、関連事業所と相談したり、インフォーマルなサービスへの支援もしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域の方との関係を築き、徐々に公民館、地域の行事へ職員と共に参加し、なじめるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事など、利用者主体となり行い、時に口論になることもあるが、それがかえって真の関係にて深めている。利用者の思い、考えは常に尊重するように心がけている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会などで、お互いの思いを話し合ったり、どのように支えていくべきか話をしている。家族、本人の思いを第一としている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に近況報告と共に本人が伝えたいことや気持ちを理解したうえで話をして関係をくずすことないように努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方、親しい友人の面会など、利用者の方との関係が途切れないよういつでも面会して頂き、ゆったりと話が出来よう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	畑、掃除、レクリエーションなどお互いに気遣いながら支えあい、普段から声を掛け合うなど、時にはスキンシップなど支えあっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者、家族の希望のもと在宅、施設、入院など、関連事業所のケアマネとともに協力機関との連携をとっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を第一としており、支援を必要とされる時には、その都度対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、環境など家族から聞いたり、施設など利用されていた方には、施設より情報を得るようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人が何をどのようにしたいのか把握し、その時の状況を見極め、本人が有する力を発揮出来るよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見、要望など何をしてほしいのかを重視し聞き取り、カンファレンスを行い作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行っている。また変化のあるときには本人、家族の意見を重視し、カンファレンスを行い作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度、経過記録、フローシート、相談記録を活用し、見直しに活かしている。職員用申し送りノートも活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとして、地域、ちぎり絵、散髪、公民館、病院診察、専門医などへの同行、援助している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に民生委員が訪問したり、地域ボランティアが興味のある人にちぎり絵を指導しに来られたり、行きたい人が公民館の教室に参加したり、必要に応じて支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	毎月1回市町村事業の転倒予防教室に地域の一般の方と一緒にいきたい入居者が参加出来るように支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターから訪問して頂き行事に参加してもらったことはあるが、現在のところケアマネジメントの必要性がないため協働はしていない。		今後、要支援2の方が入居された場合協働していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族などの希望を尊重し、納得の得られたかかりつけ医と連携を取りながら、必要に応じて適切な医療が受けられるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医と連携を取りながら、職員が相談に行ったり、認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者を良く知る地域の訪問看護ステーションと契約をとり、24時間体制で必要であれば、報告、相談したり、日常の健康管理や医療機関との活用の支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	普段から関連医療機関と連携をとっており、入院中の様子、又は早期退院に向け、地域連携室を通し、密に連絡取り合い、必要あればドクターとも相談している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、終末期のあり方について入居時に話し合い、方針を共有している。また、必要性が出てきた時には、随時、本人、家族に確認している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期のが本人、家族の希望を組み入れ、ホームで穏やかに過ごされるように、かかりつけ医、訪問看護ステーションと連携をとりながら取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族の希望により、ホームから別の居所へ移り住む際には、本人に関わるケア関係者間で十分話し合い、情報交換を行い、ダメージを防ぐように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけに注意し、プライバシーを傷つけないよう心がけている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ちぎり絵、計算ドリルなど希望される入居者にして頂いたり、ゲーム(レクリエーション)なども希望を尋ね、行っている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズム(朝ゆっくり寝たい人、朝食遅く食べたい人、昼寝したい人)など、その人のペースで生活して頂けるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば毛染めをしたり、本人行きつけの美容院に行かれる方もおられる。地域の理容院も希望によって来て頂いている。また、自分で出かける時には、お化粧をされる方もおられる。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、野菜の下ごしらえなど、一人ひとりに応じて、手伝って頂き、食事ホールにて一緒に声かけしながら、楽しく食事が出来る雰囲気作りをしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	手作りのおやつを入居者と一緒に作ったり(どら焼き、草もちなど)飲み物については、コーヒー、紅茶、お茶など好みのもをと心がけている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各入居者の排泄パターンを把握するようにし、残存機能を生かし、自立に向けて支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	菜園にて作業を行い、汗などかいた時には、シャワーをしたり、入居者の希望により入浴している。一人ひとりの入浴方法に合わせて出来る限り、くつろげる気分で入浴出来るよう支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中レクリエーション、散歩等をして、夜間良眠を促している。一人ひとりに合わせて居室、またはホールのソファにて休んでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所仕事、野菜作り、掃除等入居者の個性を生かし、役割分担している。レクリエーション、買い物、行事など、本人の希望にて行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じて、所持している方もいる。また、小銭を財布に入れて、自分の買いたい物を自分で買えるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、できる範囲内で一緒に出かけられるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見、紅葉狩りなど、家族と一緒に出かけられるよう機会を作り、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば電話している。手紙、プレゼントなど送られて来ることあり、返事を書くよう助言するなどの支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には居室にてお茶を飲みながら、ゆっくりすごされたり、時には、一緒にゲームをしたりと気軽に訪問して頂けるよう心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各職員が手引きを持っており、勉強会を行い、学習し、拘束のないケアに取り組んでいる。ベッドでどうしても柵が必要とされる方には、家族に了解を得て書類作成を行い、ケアプランと共にその都度見直しを行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、日中玄関、玄関からホールへの鍵もかけないケアをしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	作業、料理、掃除、記録など行っている時でも入居者の動き、様子など把握できるようにしている。また夜間は1時間ごとに巡回を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁については、入居者の手の届かない所に保管している。包丁以外のものについては今現在は職員の取り決めた位置に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止、リスクマネジメント委員会、勉強会を行い、防止に努め、事故のないよう利用者の状態に応じた見守り体制を取っている。また、年2回の消防訓練もあり、地域の方も参加して頂き、行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルがあり、ACLS講習を定期的に行ったり、人工呼吸、AEDの講習なども人形を用いて行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により非難、防火訓練を定期的に行っている。地域の方々にも参加していただき、訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクのある入居者については家族に起こり得るリスクの説明と了解を頂いており、入居者本位で行動するなかである程度リスクが伴うことを説明、相談記録などで了解頂き、出来る限りの対応策を話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルに注意し、いつもと違う状態であれば、ホーム長に報告を行っている。必要であれば、訪問看護ステーションに訪問依頼をしたり、病院へ受診したり、している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の薬の処方箋をファイルしており効能、副作用について確認、理解している。薬は手渡し、服用確認し、自力で服用出来ない入居者には服薬管理し、介助している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防として体操、散歩などの運動の声かけをしている。排便状況を把握し、水分補給に心がけ、場合によっては便秘薬にて対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、入居者に歯磨きの声かけをし、自力で出来ない方には介助、確認し、義歯をはめている人は毎晩入歯洗浄剤にて消毒を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算と献立をもとに調理している。時に利用者に応じて別メニューや同じ材料で違うメニューを作ったりしている。ホールにはお茶の入ったキーパーがあり、いつでものめるようになっている。また個々にボトルにお茶を入れ、しっかり補給出来るよう支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザについては年1回家族の同意のもとに予防接種を行っている。入居者、職員も手洗い、うがいを施行している。また、消毒の徹底に留意している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、まな板は漂白剤で除菌、消毒、乾燥し、調理用具も清潔に常に衛生管理し、生物は加熱処理、生野菜は消毒と十分な流水で水洗いを行い、常に新鮮で安全なものにと心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、プランターで花を植え、明るく、自動ドアでオープンにし、建物周辺はフェンスで安全に努め、庭木や利用者の造った畑があり、親しみやすくしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには畳の間があり、利用者手作りの作品など飾ったりしている。また窓は大きく、テラスがあり、自然に囲まれ、四季の移り変わりを楽しめる。キッチンは対面で食事を作る音、匂いなどあり、話をしながら生活感にあふれた空間を心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、畳の間があり、気の合った入居者同士が過ごせるようになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた机、ミニ戸棚、椅子など持参し、居心地よく過ごせるようにしている。家族の写真なども飾られている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物内は24時間換気で湿、温度計を置き、必要あればエアコン使用し、外気との大きな差がないよう調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、浴室など手すりを設け、安全に歩行出来るようにしている。床はクッションフロアになっており、また、すべてバリアフリーにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ホワイトボードに日付け、曜日の記入をしていただいたり、日記をつけたりしている。混乱時には十分に話を聴き、不安状態を取り除くようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や菜園にて物作りを楽しんでいただいたり、テラスにはデッキチェアがあり、気候の良い時期にはおしゃべりやおやつを楽しんだりしている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

Bユニットとして特に力を入れている点としては、生活リハビリとしてご本人が持っている機能を生かし、朝の掃除など片マヒで車椅子の方でも居室からゴミ箱を持って来て捨てられる。また、居室を掃いたり、掃除機をかけたり、手すりや椅子、テーブルを拭いたり自分の役割を持ってされている。手芸、手作業にも興味あり、ひとりがすれば、いつのまにか皆が集まって参加している。また、ホーム園庭には今までの経験を活かし、入居者主体で畑作りを楽しんでいる。事業者全体としては、自然に囲まれた穏やかな環境を生かし、地域の保育所や公民館などと活発に交流し、地域に根ざし、四季折々の生活を楽しんでいる。